

○空き店舗を活用したコミュニティビジネス創出加速事業補助事業 〈釧路まちなか横丁（釧路市）〉

■出店の経緯

「釧路まちなか横丁」は、釧路市の中心部の空き店舗となっていたビルを活用し、飲食店3店が入居したビル。平成31年(2019年)3月に開業した。

オーナーは釧路市出身であり、JR釧路駅前の「街の中心部」で育った。

かつての賑わいと、現在の衰退した状況を目の当たりにしてきたため、「中心部に賑わいを取り戻したい」と考えていた。

そんな折、街の中心部にある空きビルの所有者からビルを手放したいとの話を受けた。

このビルは、釧路市の中心部、駅前通りの「北大通」の中心部分「十字街」の角地に位置し、かつては喫茶店や飲食店が入居していたが、90年代には消費者金融が入居し、同社の撤退後は長年空きビルとなっていた。

このビルを活用し、飲食店を開業することで街の活性化に繋がると考え、ビルを買い取ることにし、運営会社を立ち上げた。



〔釧路まちなか横丁〕

■出店のねらい

ビル背後には、歓楽街の「末広地区」が広がっているため、その入口となるよう、「0次会」

をコンセプトに飲食店を計画した。

待ち合わせ等、会食の前に気軽に立ち寄れる場所を目指し、ここを起点として末広地区の多くの店をはしごしてもらうことで地区全体の活性化につながると考えた。

角地の目立つ場所にあるため、店の外観はとにかく目立つようこだわった。外壁の色は世界三大夕日の釧路を象徴する鮮やかなオレンジ色にし、明るい印象を作ることで、釧路の街の顔なることを目指した。

看板や外壁のデザインも工夫し、丹頂鶴や幣舞橋等、釧路らしさを取り入れたデザインとしたほか、外国語の表記も取り入れた。

観光客からも好評で記念撮影のスポットとして人気となっている。



〔工夫した外壁のデザイン〕

■店舗の概要

ビルには現在、洋風居酒屋の「凧家(カームヤ)」、中華料理の「長右衛門」、軽食&ダーツ・カラオケバーの「Toy Panchos」、イタリアンの「SOUL FREE(ソウルフリー)」と4店舗の飲食店が入居している。

開業にあたっては入居する飲食店の選定にも工夫した。

釧路市の中心部には中華料理屋が無かったことや、同様に、当時流行していたタピオカ等、デザートを提供する店も少なかったため、中華料理や、デザートを出す店を出店した。

このように、新たなジャンルの店を入居させることで、観光客だけではなく、地元客の獲得を狙っている。

また、夜間営業のほか、ランチ営業も行い、立地を活かし、オフィス街の需要も取り入れた。

地元の若者は、郊外の商業施設等の充実等により、街の中心部に足を運ぶ機会が減っている印象があった。

これらの取組で若者のニーズに対応し、若者たちを呼び込むことで賑わいが戻ると期待している。



〔尻家（カームヤ）〕

■新型コロナウイルスによる影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、大きな影響を受けた。売上はコロナ以前に比べ、2～3割程度までに落ち込んだ。

ターゲットである観光客の数が激減したことが大きな要因となっている。地元客向けには、テイクアウトに対応したため、多少の

各店舗ではマスクの着用や消毒液・アクリル板の設置、換気等、感染予防対策は万全にしながら営業を行っている。



〔アクリル板を設置〕

■今後の展開

国土交通省の許可を経て道路占用許可に係る特例を活用して9月からテラス席の営業を行った。

感染予防対策として店内の席数を減らす必要があったため、屋外のテラス席設置の許可はこうしたニーズにも合致していた。

ビルの前は国道 38 号、44 号の交差点であり、幅の広い歩道があることから、この制度を有効に活用することで、当初のコンセプトである「O次会」や「ちょい飲み客」の獲得が見込まれる。

今後も、テイクアウトやテラス席等、感染予防対策を万全としながら営業を続け、新たな顧客獲得を目指すとともに、釧路の街の賑わいづくりに寄与していく。

取材先 ■釧路まちなか横丁（株式会社 Serve&Dream）
釧路市北大通5丁目4
URL：http://machi-yoko.com